

8.1 基本方針1に対応する施策メニュー

施策の柱1 幹線ネットワークの維持

1-1 既存の幹線公共交通軸の維持【重要施策】
○ 位置づけ
<ul style="list-style-type: none">既存の幹線公共交通軸は、通勤・通学、買物、通院など、市民の生活を支える不可欠なライフラインとなっており、維持することそのものが、本市のブランド力を高め、「住みたい 住みつけたい」交通まちづくりの根幹となります。
○ 実施内容
<ul style="list-style-type: none">既存の交通事業者は、本市の幹線軸となる既存の鉄道、路線バスネットワークの維持に努めます。行政は、事業者等と連携の場を設け、必要な補助施策を検討し、積極的な支援を行います。また、市民も主体の一員とし、地域公共交通のあり方や役割を理解し、積極的に活用します。
○ 具体的な取組み
<p>既存の幹線公共交通軸の維持に向けては、下記に示す施策メニューの3つの柱を定め、これらをパッケージで実施することとします。</p> <p>【利便性向上・利用促進策の導入】</p> <ul style="list-style-type: none">行政や交通事業者等が一体となって、市内の公共交通全体を俯瞰して、総合的・複合的に利便性向上や利用促進に取り組みます。具体的には、交通拠点である JR 長岡京駅・阪急長岡天神駅の交通結節機能強化やバス待ち環境の改善を通じて、高齢者や将来のユーザーにも配慮した利用しやすい公共交通づくりを図ります。 <p>【路線バスのルート・ダイヤの再編】</p> <ul style="list-style-type: none">継続的にルートや便数の適正化を図ることとし、持続的な運行となるための運行体系の見直しを図っていきます。具体的には、鉄道駅と住宅地を結ぶルート設計（方針）を維持しながら、停留所の廃止を避けることで乗車機会は確保しつつ、ルートの重複区間の解消や利用に応じたダイヤ設定を行うことで、サービス水準の維持と収支の改善を続けていきます。 <p>【路線バスの運賃適正化】</p> <ul style="list-style-type: none">地域公共交通は市民の生活インフラであり、持続的にサービスが提供されていくためには適正な運賃体系が必要となります。昨今の物価上昇等の社会情勢に照らし合わせながら、今後も状況に応じた適切な運賃の見直し等を検討していくことで、地域公共交通ネットワークの維持に努めます。